



園だより 12月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和6年11月29日発行



キュキュキュッキュッキュ いかがです

園長 佐藤 淳穂

保育室から「やまのおんがくか」の歌が聞こえてきます。ドイツ民謡だそうですが、水田詩仙氏による日本語の歌詞には、リスやタヌキたちが楽器を奏でる姿が描かれています。特に「キュキュキュッキュッキュ」のところは自分も演奏者の気分になれる楽しいフレーズです。

3歳いちご組のAさんは歌詞に出てくるバイオリンを作りました。プリンカップに広告紙を丸めた棒が付いています。なるほど、カップの丸みはバイオリン本体のフォルムを思わせます。Aさんはカップをあごに挟んで、広告紙の棒の弓を操ります。なかなかの名演奏ぶりです。この様子を見て、次々に楽器作りが広がりました。Bさんは菓子折りの箱を組み合わせてピアノを、Cさんは空き箱で首から下げる太鼓を作りました。

翌週には「チェロとピアノの調べ」でチェロリストとピアニストをお迎えしました。低音が美しいチェロの音色が響き、よく知っている曲になるとみんなで大合唱をしました。そんな時です。Aさんが「お部屋に帰ったらチェロを作ろう」とつぶやいたのです。「いいな」と感じたら身近な材料で作り始める…そのひらめきと行動力が3歳児の中に育っていることに、あらためて感心します。

演奏会が終わって保育室を覗くと、舞台の上にAさんとDさんが乗っていました。Aさんが演奏しているのは…チェロでした。空き箱の下に付いている丸い筒は、チェロを床に立てて支える棒状の部品、つまりエンドピンに間違いありません。そして、Dさんは新作のピアノを弾いていました。空き箱の淵に鍵盤と思われる長方形の紙が5枚くらい付いています。鍵盤は付箋のように前方に張り出して貼られているので、指で鍵盤を押すことができました。

担任が「やまのおんがくか」の曲を流すと、AさんもDさんも作ったチェロやピアノを音楽に合わせて演奏しました。実際には音は鳴らない手作り楽器ですが、3歳の子どもたちにはプロのあの音色が聞こえているのです。こうなったら盛り上がるしかありません。他の子どもたちも以前に作ってあった自分の太鼓やフルートを持ち出してきました。「キュキュキュッキュッキュ」のフレーズになれば、あっちこっちを向いて自分の演奏に浸っている子どもたちの気持ちがつながります。15分ほど前に味わった演奏会の感動を、今度は自分たちで再現することを楽しんでいるのです。

今月はこども会があります。劇も合奏もこうした遊びの延長です。当日だけでなく、友達と一緒にだからこそその表現の楽しさを味わっているこのプロセスを大切にしたいと思います。